

**製品名: Rag B ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab16860**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	RRAGB
別名	RRAGB; Ras-related GTP-binding protein B; Rag B; RagB
遺伝子 ID	10325.0
SwissProt ID	Q5VZM2
免疫原	Rag B 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 50-130

**背景**

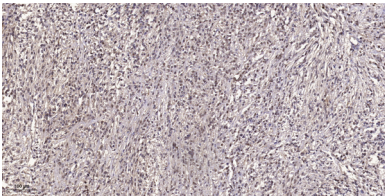
Ras 相同 GTPase は、活性化された GTP 結合状態と不活性化された GDP 結合状態を交互に繰り返すシグナル伝達因子の大規模なファミリーを構成しています。これらのタンパク質は、GTP 交換因子と、それらの固有の GTPase 活性を刺激する因子によって作動する

細胞スイッチとして機能します。RasスーパーファミリーのすべてのGTPaseは、GTP/GDP結合に関与する6つの保存されたモチーフを共通して有しており、そのうち3つはリン酸/マグネシウム結合部位 (PM1-PM3) であり、残りの3つはグアニンヌクレオチド結合部位 (G1-G3) です。異なるアイソフォームをコードする転写バリエーションが同定されています。[RefSeq提供、2008年7月]、機能: RCC1/Ran-GTPase経路に関与。グアニンヌクレオチド結合活性を有するが、内因性GTPase活性は検出されない。類似性: GTR/RAG GTP結合タンパク質ファミリーに属する。サブユニット: 短いアイソフォームはGTPに結合する(類似性による)。RRAGCおよびRRAGDと相互作用する。

## 研究分野

mTOR

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト小腸癌組織の免疫組織化学分析。1、Rag B ウサギポリクローナル抗体を 1:200 に希釈した (4°で一晩)。2、クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用して抗原賦活化した (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈した。